

## 各業種の進捗状況の概要(2014年度実績)

目標設定  
について  
(継続論点)昨年度の  
取組実績について  
(継続論点)低炭素社会実行計画の柱に沿った調査票の章立て  
(詳細内容はフォローアップ調査票を参照)目標設定  
について  
(継続論点)

	目標指標	基準年度 /BAU	2020年目標	2014年度実績	進捗率	想定比	2015年度 の見通し	CO2排出量 2014年度実 績 (万t-CO2)	2030年目標 策定状況	低炭素製 品・サービ ス等によ る他部門 での貢献	海外での 削減貢献	革新的技 術の開発・ 導入	策定目標の 見直し
一般社団法人 日本新聞協会	エネルギー消費量	2005年度	▲13%	▲26.1%*	201%	-	-	47.1万t-CO2	-	-	リストアップ	-	-
公益社団法人 全国産業廃棄物連合会	温室効果ガス排出量	2010年度	±0%	+4.0%**	-3%	-	-	564.4万t-CO2	-	-	-	-	-
一般社団法人 全国ペット協会	CO2排出量原単位	2012年度	±0%	+37%***	-37%	-	-	0.547万t-CO2	○	CO2排出量原単位 2012年度比 ±0%	-	-	-

(注1)2014年度実績及び2015年度の見通しについて、基準年度比での削減目標を掲げた業種は基準年度比の削減率を、BAUからの削減目標を掲げた業種はBAUからの削減量をそれぞれ記載。

(注2)「進捗率」は、目標水準と比較した2014年度実績の比率。【進捗率=(基準年度の実績水準-当年度の実績水準)/(基準年度の実績水準-2020年度の目標水準)×100(%)】

(注3)「想定比」は、2014年度について予め想定した水準と比較した実績値の比率。【想定比=(基準年度の実績水準-当年度の実績水準)/(基準年度の実績水準-当年度の想定した水準)×100(%)】

(注4)「目標の引き上げ」は、低炭素社会実行計画においてこれまで目標を変更した年度及びその水準。

(注5)2014年度実績の算定にあたり使用された係数。

\* 日本新聞協会は、電力排出係数に調整後排出係数0.554kg-CO2/kWhを使用、その他燃料には調査票にある総合エネルギー統計の係数を使用。

\*\* 全国産業廃棄物連合会の目標には電力の使用に伴う排出量は含めない、その他燃料の係数には日本国温室効果ガスインベントリ(2015年4月)を使用。

\*\*\*全国ペット協会は、電力排出係数に2006年度の使用端CO2排出係数0.410kg-CO2/kWhを使用。

(注6)着色している業種は、2014年度実績において進捗率が100%を超過している業種。ただし、各業種とも、最終的には2020年実績で目標を達成することとしている。

(注7)低炭素製品・サービス等による他部門での貢献は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記

(注8)海外での削減貢献は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記

(注9)革新的技術の開発・導入は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記

## 各業種の進捗状況の概要(2014年度実績)

目標設定  
について  
(継続論点)昨年度の  
取組実績について  
(継続論点)低炭素社会実行計画の柱に沿った調査票の章立て  
(詳細内容はフォローアップ調査票を参照)目標設定  
について  
(継続論点)

	目標指標	基準年度 /BAU	2020年目標	2014年度実績	進捗率	想定比	2015年度 の見通し	CO2排出量 2014年度実 績 (万t-CO2)	2030年目標 策定状況	低炭素製 品・サービ ス等によ る他部門 での貢献	海外での 削減貢献	革新的技 術の開発・ 導入	策定目標の 見直し
一般社団法人 日本新聞協会	エネルギー消費量	2005年度	▲13%	▲26.1%*	201%	-	-	47.1万t-CO2	-	-	リストアップ	-	-
公益社団法人 全国産業廃棄物連合会	温室効果ガス排出量	2010年度	±0%	+4.0%**	-3%	-	-	564.4万t-CO2	-	-	-	-	-
一般社団法人 全国ペット協会	CO2排出量原単位	2012年度	±0%	+37%***	-37%	-	-	0.547万t-CO2	○	CO2排出量原単位 2012年度比 ±0%	-	-	-

(注1)2014年度実績及び2015年度の見通しについて、基準年度比での削減目標を掲げた業種は基準年度比の削減率を、BAUからの削減目標を掲げた業種はBAUからの削減量をそれぞれ記載。

(注2)「進捗率」は、目標水準と比較した2014年度実績の比率。【進捗率=(基準年度の実績水準-当年度の実績水準)/(基準年度の実績水準-2020年度の目標水準)×100(%)】

(注3)「想定比」は、2014年度について予め想定した水準と比較した実績値の比率。【想定比=(基準年度の実績水準-当年度の実績水準)/(基準年度の実績水準-当年度の想定した水準)×100(%)】

(注4)「目標の引き上げ」は、低炭素社会実行計画においてこれまで目標を変更した年度及びその水準。

(注5)2014年度実績の算定にあたり使用された係数。

\* 日本新聞協会は、電力排出係数に調整後排出係数0.554kg-CO2/kWhを使用、その他燃料には調査票にある総合エネルギー統計の係数を使用。

\*\* 全国産業廃棄物連合会の目標には電力の使用に伴う排出量は含めない、その他燃料の係数には日本国温室効果ガスインベントリ(2015年4月)を使用。

\*\*\*全国ペット協会は、電力排出係数に2006年度の使用端CO2排出係数0.410kg-CO2/kWhを使用。

(注6)着色している業種は、2014年度実績において進捗率が100%を超過している業種。ただし、各業種とも、最終的には2020年実績で目標を達成することとしている。

(注7)低炭素製品・サービス等による他部門での貢献は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記

(注8)海外での削減貢献は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記

(注9)革新的技術の開発・導入は、リストアップ(定量化含む)、-(検討中)と表記